

平成25年次（1月～12月）北九州市観光動態調査結果について

1 観光客数【延べ人数】

（単位：万人）

	観光地点	行祭事・イベント	合計
H25	1,590.5	974.9	2,565.4
H24	1,461.2	1,056.0	2,517.2
増減数	129.3	▲ 81.1	48.2
対前年比	108.8%	92.3%	101.9%

2 観光地点の観光客数【実数】

（単位：万人）

	宿泊		日帰り		合計	
	うち市外		うち市外		うち市外	
H25	151.3	149.6	988.5	497.2	1,139.8	646.8
H24	133.0	131.5	950.8	490.6	1,083.8	622.1
増減数	18.3	18.1	37.7	6.6	56.0	24.7
対前年比	113.8%	113.8%	104.0%	101.3%	105.2%	104.0%

3 観光消費額

（単位：億円）

	観光地点	行祭事・イベント	合計
H25	724.3	276.1	1,000.5
H24	663.8	317.8	981.5
増減数	60.6	▲ 41.6	18.9
対前年比	109.1%	86.9%	101.9%

【参考1】 代表的な立ち寄り地区の観光客数（延べ数）

（単位：万人）

地区名	観光客数	構成比
門司港地区	220.8	13.9%
レトロ地区	205.7	12.9%
和布刈地区	15.1	0.9%
小倉都心地区	514.9	32.4%
八幡東田地区	236.4	14.9%
皿倉山周辺地区	38.6	2.4%
平尾台地区	49.4	3.1%
到津の森公園周辺地区	61.6	3.9%
若松北海岸地区	83.8	5.3%
若松南海岸地区	7.9	0.5%
その他	377.1	23.7%
合計	1590.5	100.0%

【参考2】 産業観光、修学旅行、外国人観光客の推移

○産業観光客数の推移

（単位：万人）

年	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
観光客数	26.1	26.8	27.7	25.6	25.2	23.6	26.3	26.0

※市外事業所含む

○修学旅行生数の推移

（単位：万人）

年	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
観光客数	18.9	19.4	19.5	14.4	17.3	19.4	17.4	18.3

○外国人観光客数の推移

（単位：万人）

年	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
観光客数	11.9	14.2	12.6	6.3	11.0	6.5	11.4	13.2

北九州市観光動態調査
(平成 25 年次)

報 告 書

北 九 州 市

目 次

1章 調査概要	1
1. 1 調査目的	1
1. 2 調査方法	1
1. 3 調査結果の概要	3
2章 観光地点の観光客数について	6
2. 1 観光地点日帰り観光客数の推計	6
2. 2 宿泊観光客数の推計	7
3章 行祭事・イベント観光客数の推計	8
3. 1 行祭事・イベント観光客数の推計	8
3. 2 行祭事・イベント観光客数（主なもの）	9
4章 観光消費額とその経済波及効果	10
4. 1 費目別一人当たり観光消費額	10
4. 2 年間の観光消費額	11
4. 3 年間の経済波及効果	12
5章 観光客数等の推移動向	13
5. 1 年次別観光客数内訳	13
5. 2 年次別代表的立寄り地区観光客数内訳	14
5. 3 年次別観光客数内訳等	15

1 章 調査概要

1. 1 調査目的

北九州市における、観光客の動向や特性を把握することにより、今後の本市における観光諸施策を効果的に推進するための基礎資料とすることを目的とする。

1. 2 調査方法

平成 23 年次の調査から、都道府県単位での相互に比較可能な統計を作成することを目的として、平成 21 年 12 月に国土交通省観光庁が定めた「観光入込客統計に関する共通基準」（平成 21 年 12 月策定、平成 25 年 3 月改定、以下、「共通基準」と略す）に準拠することとした。

調査方法は、図 1-1 の調査全体フローに示すとおりである。

なお、推計は平成 25 年次（平成 25 年 1 月～12 月）とする。

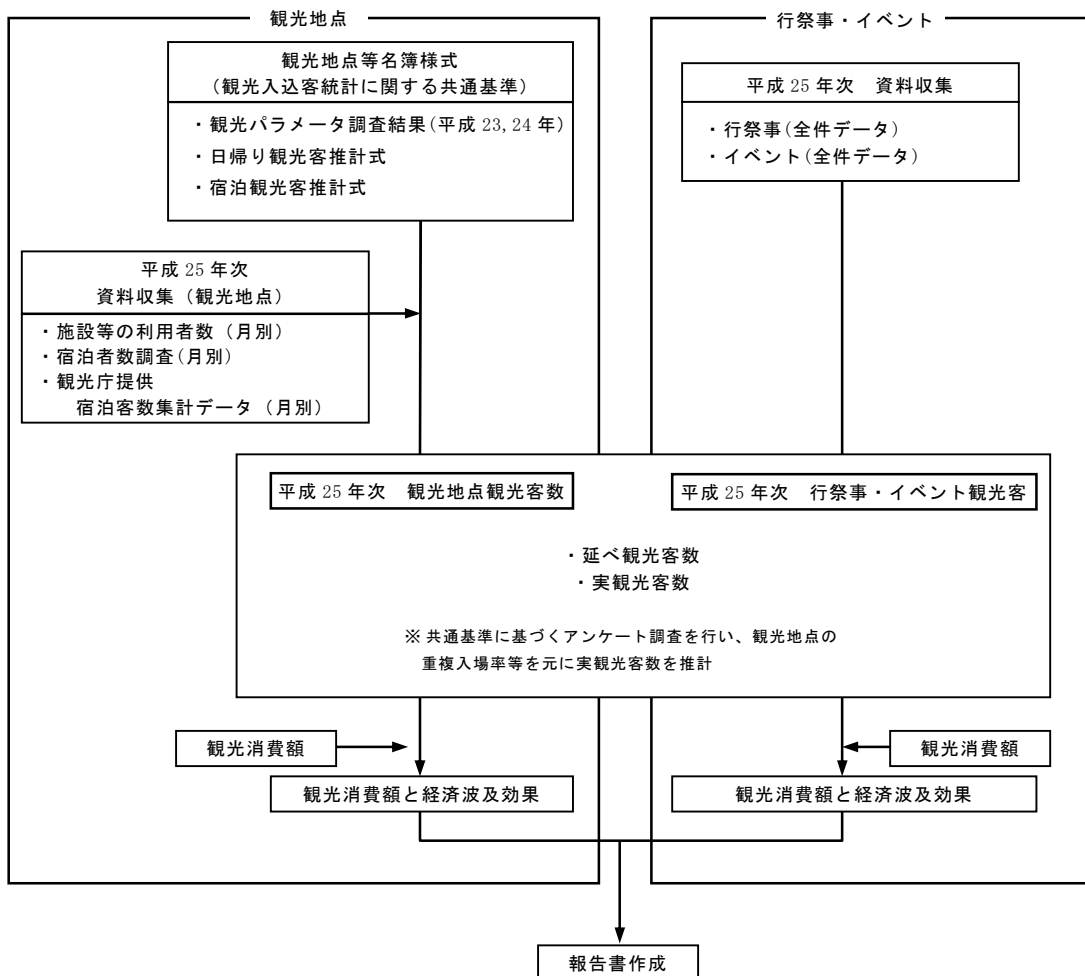


図 1-1 調査全体フロー

(1) 用語の定義

①観光

余暇、ビジネス、その他の目的のため、日常生活圏を離れ、継続して1年を超えない期間の旅をし、また滞在する人々の諸活動をさす。

②ビジネス目的兼観光

旅行の主目的がビジネスである者が、観光地点を訪れることを意味する。

③観光地点と行祭事・イベント

○観光地点

観光・ビジネスの目的を問わず、観光客を集客する力のある施設またはツーリズム等の観光活動の拠点となる地点を意味し、日常的な利用、通過型の利用がほとんどを占めると考えられる地点は対象としないこととする。

○観光地点の分類について

- ・自然：海岸、島など
- ・歴史・文化：城、庭園、博物館、美術館など
- ・温泉・健康：温泉など
- ・スポーツ・レクリエーション：キャンプ場、釣り場、海水浴場など
- ・都市型観光：商業施設、直売所、物産館など

○行祭事・イベント

行祭事とは、地域住民の生活において伝統と慣行により継承されてきた、恒例として日を定め執り行う歴史的催し・祭り、郷土芸能等の集合を意味し、イベントとは、常設または特設の会場施設において行われる博覧会、見本市、コンベンション等をさす。

④観光入込客

日常生活圏以外の場所へ旅行し、そこでの滞在が報酬を得ることを目的としない者。共通基準では観光地点及び行祭事・イベントを訪れた者とする。

(2) 観光客統計上の推計もしくは集計対象の設定

共通基準では、観光客統計上の集計対象として観光地点及び行祭事・イベントを抽出する一つの条件として、以下の基準値を設けている。

推計もしくは集計対象は、前年の観光客数や行祭事・イベント入場者数が年間1万人以上、または特定月のそれが5,000人以上の観光地点及び行祭事・イベントとする。

なお、宿泊客数は観光庁（宿泊旅行統計調査）からの提供データを基に推計している。

※図表番号について

本報告書掲載図表の図表番号に、「参考」と冠した図表タイトルが表記されている場合、本市独自の推計手法を用いた推計結果であることを示している。

※内数・構成比について

文中・図表における内数・構成比は四捨五入しているため、合計値と異なる場合がある。

1. 3 調査結果の概要

北九州市における平成 25 年次の観光地点の観光客数（延べ人数ベース）は、観光地点で 1,590.5 万人で、これを行祭事・イベントと合わせると 2,565.4 万人である（表 1－1）。

また、観光客の年間消費額は、観光地点 724.3 億円、行祭事・イベント 276.1 億円であり、この消費額が北九州市の生産部門に与える誘発効果（一次）は 1.39 倍で、観光地点 1,006.8 億円、行祭事・イベント 383.8 億円と推定される（4 章 P. 11、P. 12 参照）。

表 1－1 観光客数（延べ人数）

（単位：万人）

観光地点 総数	観光地点						行祭事・ イベント	合計
	自然	歴史・ 文化	温泉・ 健康	スポーツ・ レクリエー ション	都市型 観光	その他		
1,590.5	18.2	577.3	16.6	283.0	293.1	402.4	974.9	2,565.4

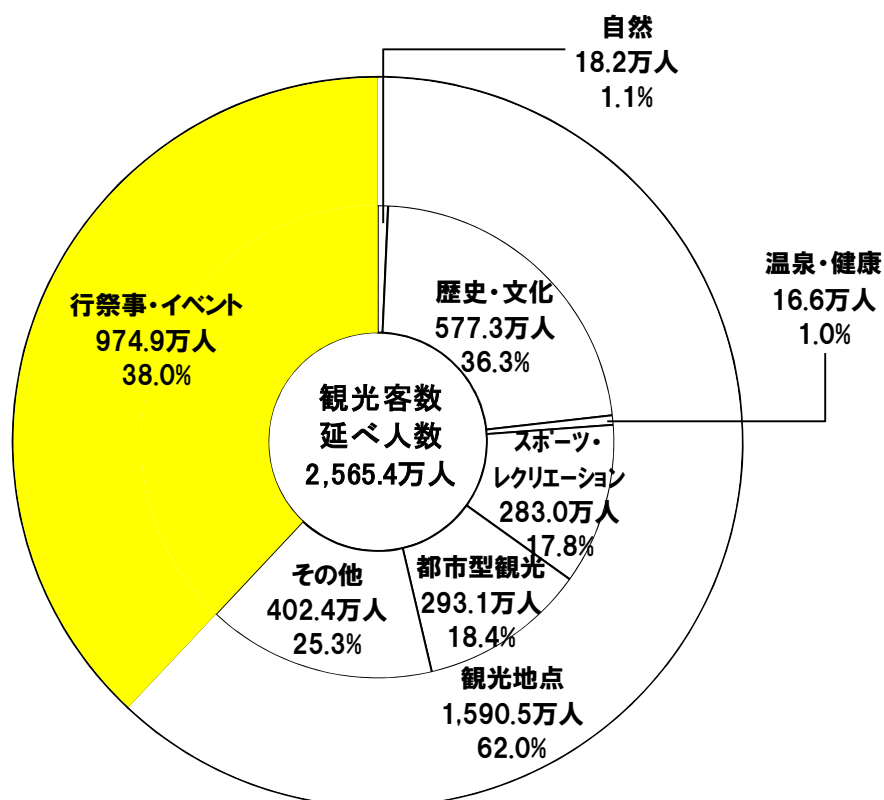


図 1－2 観光客数（延べ人数）

実人数ベースでみた観光客数は、観光地点で1,139.8万人である（表1-2）。

表1-2 観光地点の観光客数（実人数）

（単位：万人）

	市外		市内		合計	
観光地点	646.8	56.7%	493.0	43.3%	1,139.8	100.0%
宿泊客	149.6	13.1%	1.7	0.1%	151.3	13.3%
日帰り客	497.2	43.6%	491.3	43.1%	988.5	86.7%

注) 宿泊客数の合計は観光庁からの提供。ただし市内外の内数は本市にて推計。

注) 市内外の内数は本市が実施した観光地点パラメータ調査の結果より集計。

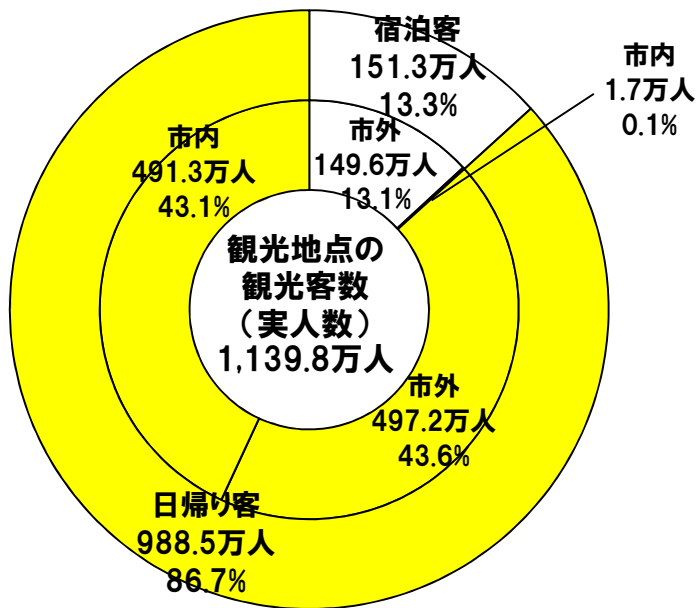


図1-3 観光地点の観光客数（実人数）

参考：表 1-1 代表的な観光地点観光客数の内訳（延べ人数）

（単位：万人）

地 区	種 類	観光客数	構成比
	門司港地区	220.8	13.9%
	レトロ地区	205.7	12.9%
	和布刈地区	15.1	0.9%
	小倉都心地区	514.9	32.4%
	八幡東田地区	236.4	14.9%
	皿倉山周辺地区	38.6	2.4%
	平尾台地区	49.4	3.1%
	到津の森公園周辺地区	61.6	3.9%
	若松北海岸地区	83.8	5.3%
	若松南海岸地区	7.9	0.5%
	その他	377.1	23.7%
	合計	1590.5	100.0%

参考：表 1-2 産業観光客数の推移

（単位：万人）

年	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
産業観光客数	21.7	23.1	26.1	26.8	27.7	25.6	25.2	23.6	26.3	26.0

注) 市外事業所の観光客数も含む。

（各立ち寄り施設・産業観光施設調べ）

参考：表 1-3 修学旅行生数の推移

（単位：万人）

年	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
修学旅行生数	17.8	16.1	18.9	19.4	19.5	14.4	17.3	19.4	17.4	18.3

（各立ち寄り施設・産業観光施設調べ）

参考：表 1-4 外国人観光客数の推移

（単位：万人）

年	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
外国人観光客数	10.7	10.4	11.9	14.2	12.6	6.3	11.0	6.5	11.4	13.2

（北九州市国際観光推進協議会及び各宿泊施設・産業観光施設調べ）

2章 観光地点の観光客数について

2. 1 観光地点日帰り観光客数の推計

平成 25 年次の観光地点における日帰り観光客数は、年間 988.5 万人と推計される。うち兼観光目的の市民外日帰りビジネス客を除く観光客数は 945.0 万人で、四半期別にみると、7-9 月期に最も多くなっている。

表 2 - 1 観光地点日帰り観光客数（実人数）

						(単位：万人)
	区分	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	計
日帰り 観光客数 の 推計値	a. 観光客 (bを除く)	172.0	264.6	306.2	202.2	945.0
	b. 兼観光市民外 ビジネス客	43.5				43.5
						988.5

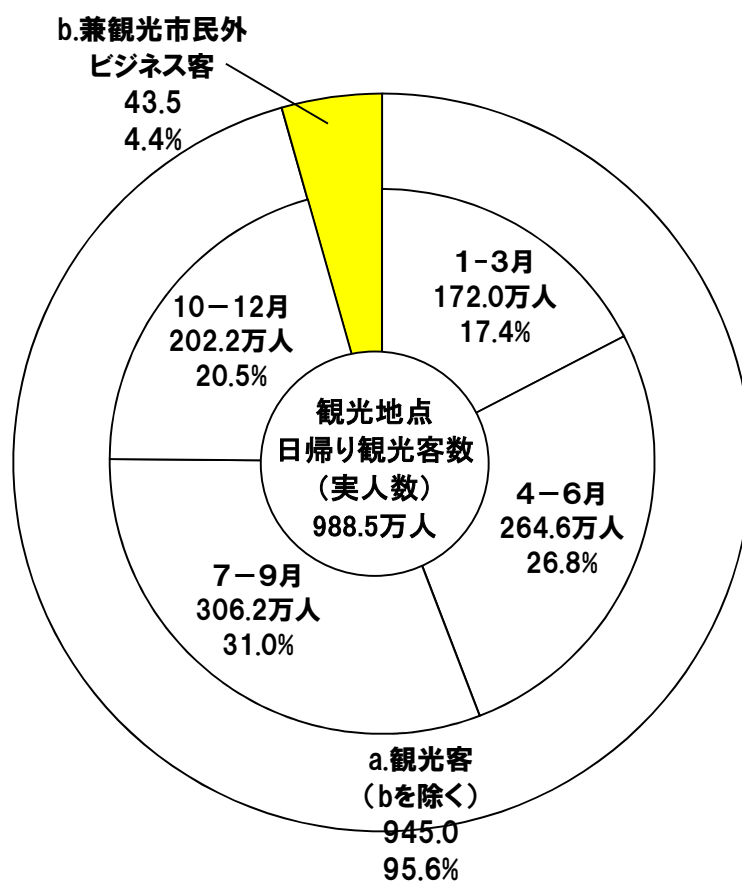


図 2 - 1 観光地点日帰り観光客数（実人数）

2. 2 宿泊観光客数の推計

平成 25 年次の宿泊観光客数について、共通基準に基づいて四半期ごとに推計した結果を、表 2-2 に示す。

その結果、平成 25 年次の宿泊観光客数は 151.3 万人と推計される。

四半期別にみると、7-9 月期の宿泊観光客数が最も多くなっている。

表 2-2 四半期別宿泊観光客数（実人数）

（単位：万人）

	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	合計
観光目的	9.7	12.7	11.5	11.6	45.4
ビジネス兼 観光目的	24.0	25.1	29.5	27.3	105.8
合計	33.7	37.8	40.9	38.8	151.3

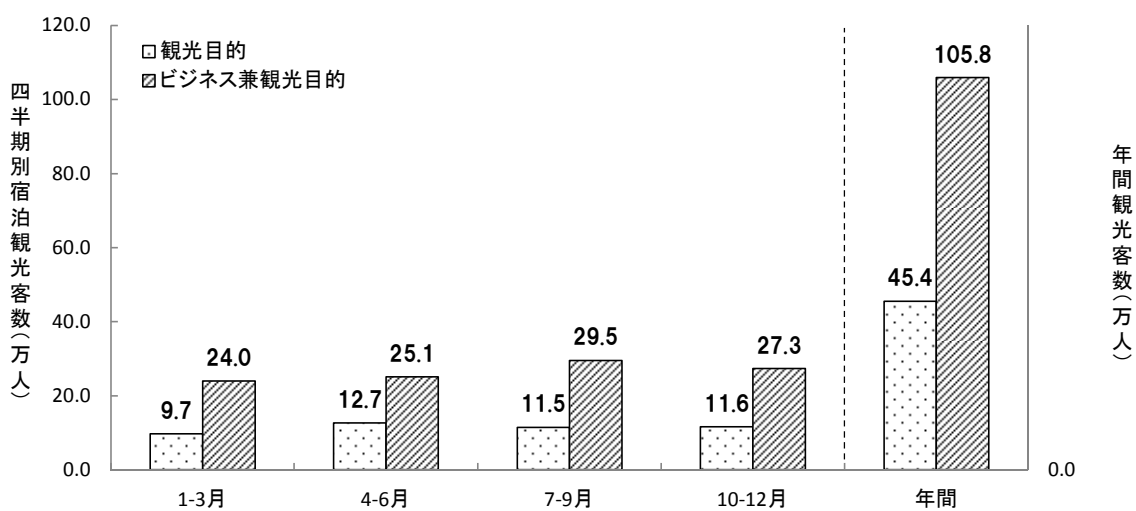


図 2-2 四半期別宿泊観光客数（実人数）

3章 行祭事・イベント観光客数の推計

3.1 行祭事・イベント観光客数の推計

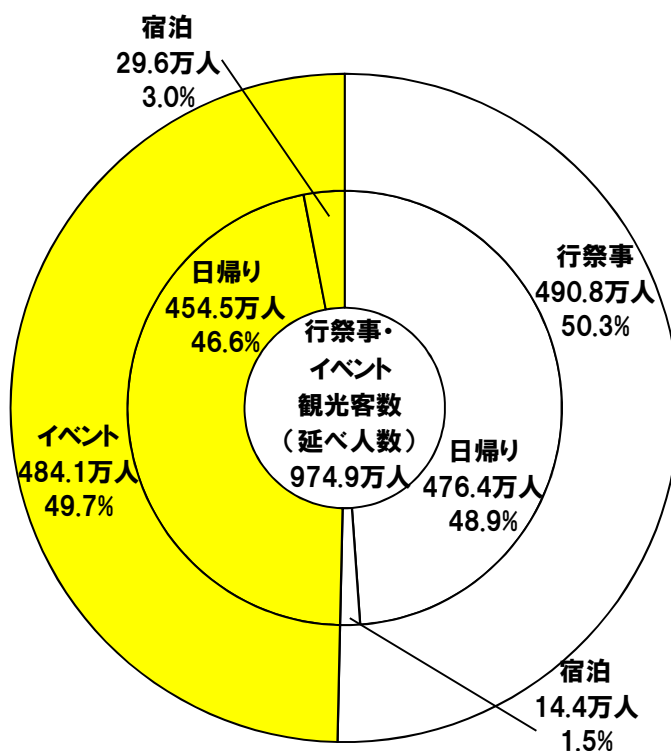
行祭事・イベントの観光客数を、共通基準の推計対象基準値（特定月における入場者数が5,000人以上を推計の基本対象とする）に従って、行祭事、イベントに分けて各々の観光客（日帰り・宿泊別）を推計した。

その結果、平成25年次の行祭事の観光客数は490.8万人、他方イベントの観光客数は484.1万人と推計された。

参考：表3-1 行祭事・イベント観光客数の内訳（延べ人数）（単位：万人）

種類	総観光客数	日帰り客	宿泊客
行祭事	490.8（50.3%）	476.4（48.9%）	14.4（1.5%）
イベント	484.1（49.7%）	454.5（46.6%）	29.6（3.0%）
合計	974.9（100.0%）	930.9（95.5%）	44.0（4.5%）

注）（ ）は「総観光客数の合計」に対する構成比。



参考：図3-1 行祭事・イベント観光客数の内訳（延べ人数）

3. 2 行祭事・イベント観光客数（主なもの）

(1) 行祭事観光客数

まつり観光のうち、見物客数上位 10 位までのまつりを主なものとし整理した（参考：表 3-2）。推計結果は、454.0 万人であった。

参考：表 3-2 行祭事観光客数

順位	開催 季節	まつり	見物客数 (万人)	開催時期	開催場所
1	夏	わっしょい百万夏まつり	154.0	平成25年8月3日～8月4日	小倉北区・小倉都心部
2	夏	第26回 関門海峡花火大会	70.0	平成25年8月13日	門司区・関門海峡沿岸
3	秋	まつり起業祭八幡2013	63.0	平成25年11月2日～11月4日	八幡東区・大谷地区一帯
4	夏	黒崎祇園山笠	38.0	平成25年7月19日～7月22日	八幡西区・黒崎副都心部
5	夏	くきのうみ花火の祭典・若松みなと祭り	32.0	平成25年7月19日	若松区・若松南海岸
6	夏	小倉祇園太鼓	30.0	平成25年7月19日～7月21日	小倉北区・小倉都心部
7	春	第70回 門司みなと祭	26.0	平成25年5月25日～5月26日	門司区・門司港地区
8	夏	戸畑祇園大山笠	23.0	平成25年7月26日～7月28日	戸畑区・戸畑区役所周辺
9	秋	第55回 北九州小倉城まつり	9.5	平成25年10月19日～10月20日	小倉北区・小倉都心部
10	夏	まつりみなみ2013	8.5	平成25年8月17日	小倉南区・志井
計			454.0	—	—

(2) イベント観光客数

イベント観光のうち、入場者数上位 5 つを主なものとし整理した（参考：表 3-3）。その結果、上位 5 者全体の推計結果は 79.3 万人であった。

参考：表 3-3 イベント観光客数

順位	開催 季節	イベント	入場者数 (万人)	開催時期	開催場所
1	秋	市制50周年記念 夏休み特別展 「あそぶ！まなぶ！たべる！」お菓子カーニバル	25.0	平成25年7月20日～平成25年9月1日	八幡西区・子どもの館
2	冬	エコライフステージ2013	15.7	平成25年10月19日～平成25年10月20日	小倉北区・小倉都心部
2	秋	第19回 門司海峡フェスタ	14.0	平成25年5月3日～平成25年5月4日	門司区・門司港地区
4	夏	いのちのたび博物館 夏の特別展 世界の昆虫展	12.6	平成25年7月13日～平成25年9月1日	八幡東区・東田地区
5	冬	小倉 食市座	12.0	平成25年2月8日～平成25年2月14日	小倉北区・小倉都心部
計			79.3	—	—

4 章 観光消費額とその経済波及効果

本章は、観光客による観光消費額が北九州市の産業部門に与える経済波及効果について北九州市の産業関連表を用いて算出した。

4. 1 費目別一人当たり観光消費額

参考：表 4-1 (1) 一人当たり観光消費額【観光地点】

(円/人)

種類 消費項目	宿泊観光		日帰り観光	
① 宿泊費	7,975	(46.9%)	—	
② 飲食費	3,714	(21.9%)	1,215	(29.2%)
③ 交通費	2,178	(12.8%)	1,000	(24.0%)
④ 土産費	2,149	(12.6%)	830	(20.6%)
⑤ 入場費等	975	(6.3%)	1,118	(26.9%)
計	16,991		4,163	

注) パック料金旅行者は除く。

出典：観光地点パラメータ調査（平成 23 年～24 年実施、北九州市）

参考：表 4-1 (2) 一人当たり観光消費額【行祭事・イベント】

(円/人)

種類 消費項目	宿泊観光		日帰り観光	
① 宿泊費	9,800	(48.3%)	—	
② 飲食費	5,000	(24.6%)	1,000	(49.5%)
③ 交通費	1,160	(5.7%)	520	(25.7%)
④ 買い物費	4,120	(20.3%)	500	(24.8%)
⑤ レジャー費	230	(1.1%)	—	
計	20,310		2,020	

出典：成功する行政イベント【北九州方式】（北九州市イベント研究会）

4. 2 年間の観光消費額

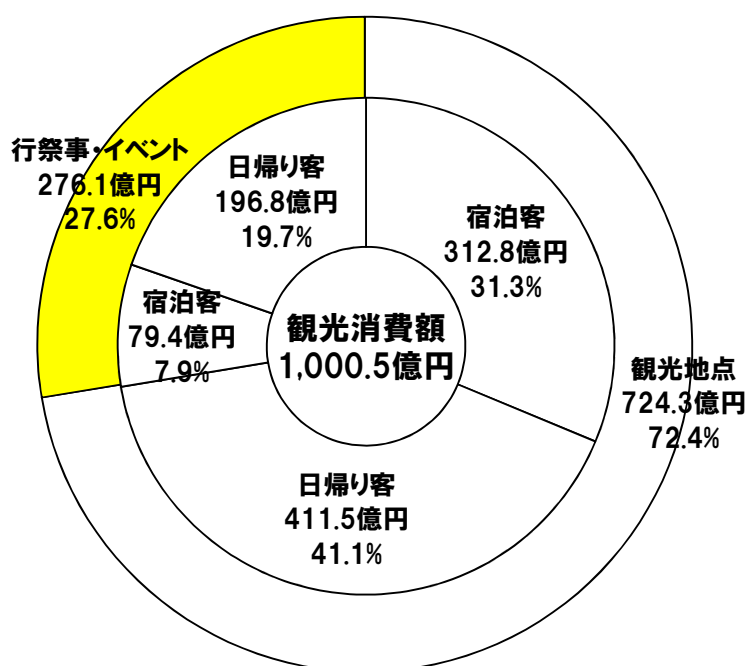
消費額単価に年間観光客数を乗じて年間観光消費額を試算すると、観光地点ベースでは724.3億円、行祭事・イベントベースでは276.1億円、合計で1,000.5億円が認められた。

参考：表4-2 観光消費額

(単位：億円)

	観光地点	行祭事・イベント
宿泊客	312.8	79.4
日帰り客	411.5	196.8
計	724.3	276.1

注) 主催者発表と独自調査により観光消費額を算定。



参考：図4-1 観光消費額

4. 3 年間の経済波及効果

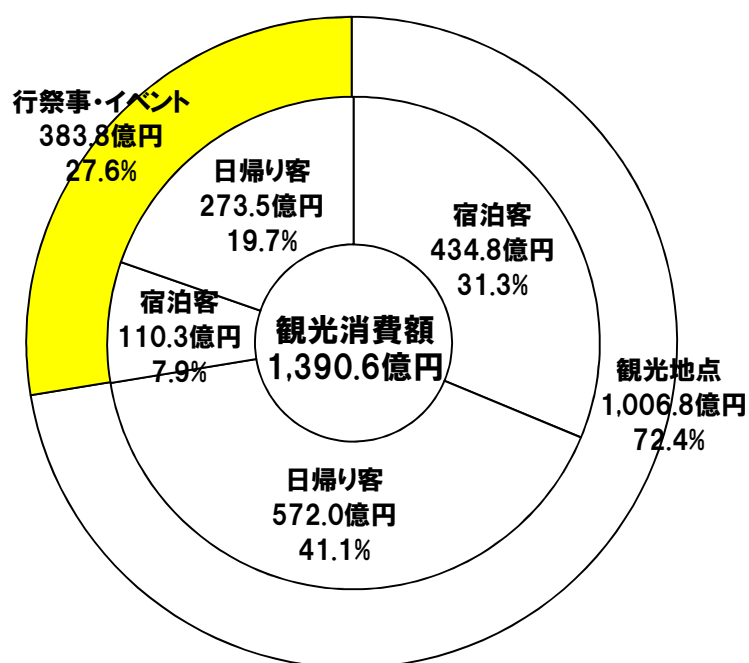
4. 2で算出した観光消費額をもとに北九州市産業関連表を用いて試算すると、観光地点ベースで1,006.8億円、行祭事・イベントベースで383.8億円と、前者・後者共に1.39倍の生産誘発効果（一次）が認められた。

参考：表4-3 経済波及効果

(単位：億円)

	観光地点	行祭事・イベント
宿泊客	434.8	110.3
日帰り客	572.0	273.5
計	1,006.8	383.8

注) 経済波及効果の乗数係数1.39は「平成17年 北九州市産業関連表」により算定。



参考：図4-2 経済波及効果

5 章 観光客数等の推移動向

5. 1 年次別観光客数内訳

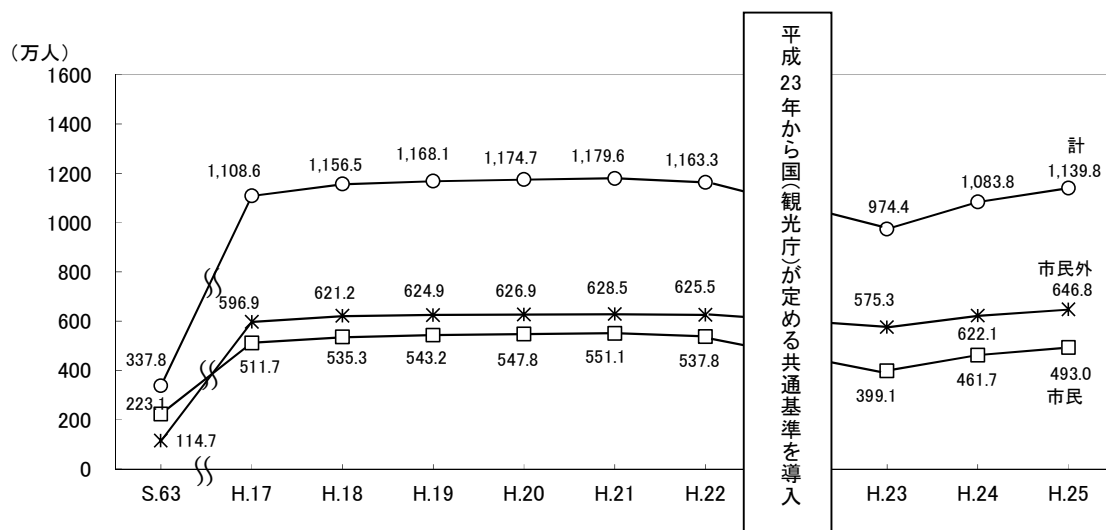


図5-1 観光地点観光客数の推移

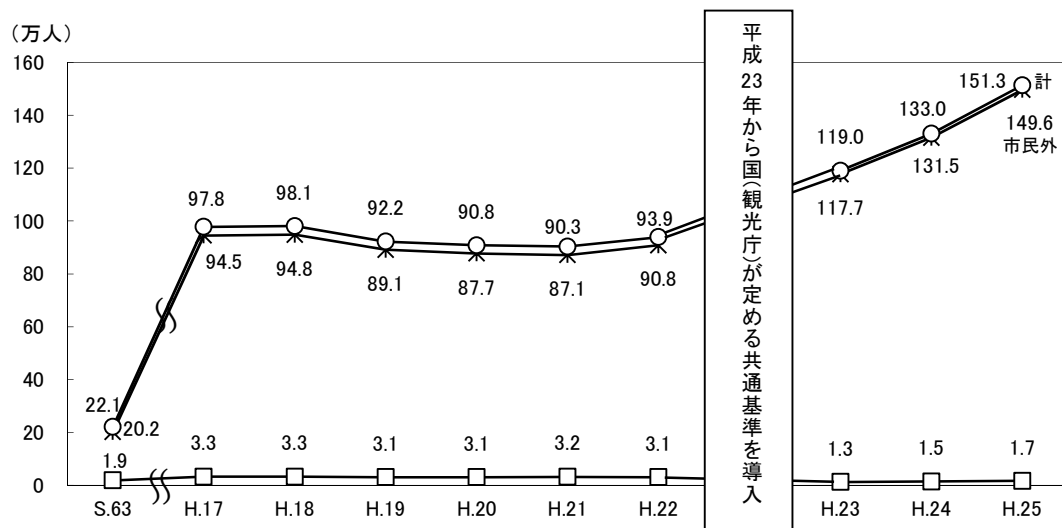
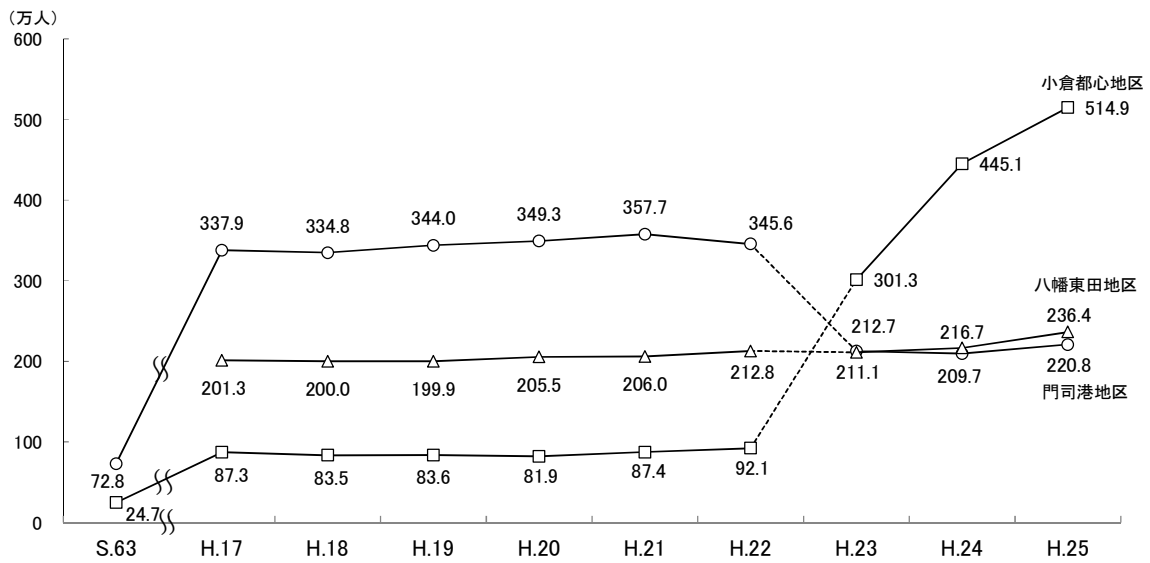
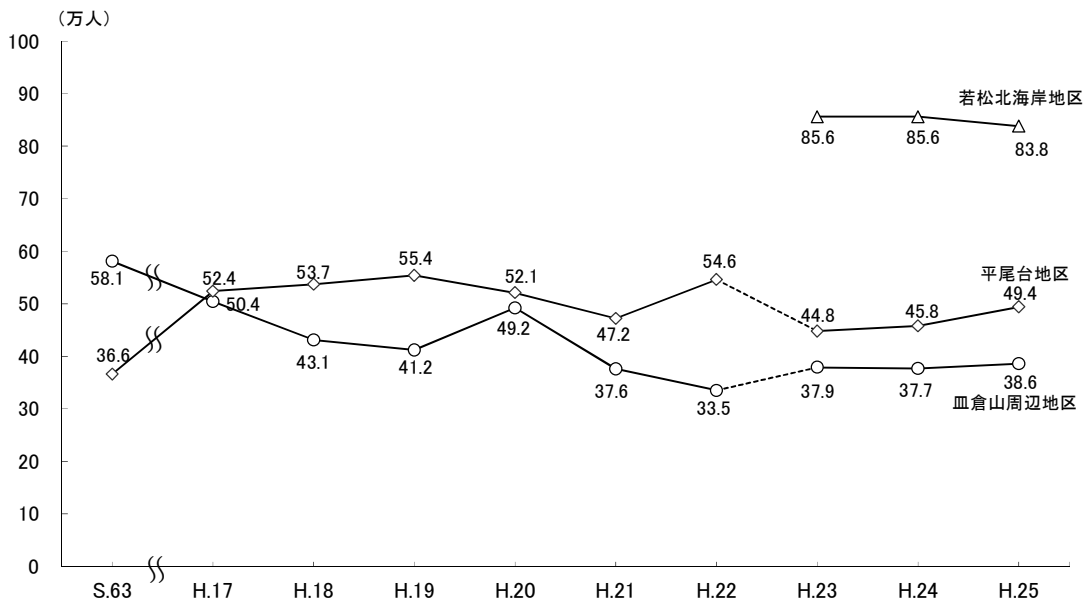


図5-2 観光地点宿泊者数の推移

5. 2 年次別代表的立寄り地区観光客数内訳



門司港地区・小倉都心地区・八幡東田地区



皿倉山周辺地区・平尾台地区・若松北海岸地区

参考：図5-3 立寄り地区の観光客数の推移

5. 3 年次別観光客数内訳等

表 5 - 1 年次別観光客数内訳（延べ人数）

（単位：万人）

種 類 \ 年	平成 23年次	平成 24年次	平成 25年次
観光地点	1,307.4	1,461.2	1,590.5
行祭事・イベント	934.3	1,056.0	974.9
合計	2241.7	2,517.2	2,565.4

表 5 - 2 観光消費額及び経済波及効果の推移

（単位：億円）

項 目 \ 年	平成 23年次	平成 24年次	平成 25年次
観光消費額	888.9	981.5	1,000.5
波及効果額	1,235.6	1,364.3	1,390.6
乗数効果	1.39	1.39	1.39

・生産誘発効果は「平成 17 年 北九州市産業連関表」より算定。

参考：表 5 - 3 観光地点の開業史（平成 12 年以降）

開業年月	観光地点名
平成 12年 5月	平尾台自然観察センター
12年 7月	水環境館
12年 11月	河内温泉（あじさいの湯）
13年 6月	帆柱ケーブルリニューアル
14年 4月	到津の森公園リニューアル
14年 4月	環境ミュージアム
14年 11月	自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）
15年 4月	海峡ドラマシップ
15年 4月	平尾台自然の郷
15年 4月	リバーウォーク北九州
15年 8月	九州鉄道記念館
16年 4月	汐入の里
17年 5月	門司麦酒煉瓦館
18年 3月	北九州空港
18年 11月	北九州市立文学館
19年 5月	北九州産業技術保存継承センター（K I G S）
19年 12月	皿倉山頂展望台・皿倉山スロープカー
21年 4月	門司港レトロ列車「潮風号」
24年 4月	あるあるC i t y
24年 8月	北九州市漫画ミュージアム
24年 10月	北九州市響灘ピオトープ
25年 7月	旧大連航路上屋

北九州市産業経済局 観光・コンベンション課

T E L 093-551-8150

F A X 093-551-8151

平成 26 年 8 月発行